

みんなで

護ろう文化財

VOL.00

文化財保護委員

阿蘇神社・国造神社では、収穫祈願・豊作感謝・風霜害防除など四季を通じた祭事が行われています。この祭事は、日本の農耕生活の推移や庶民信仰を知る上で最も典型的な例として、昭和57年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。今回は、阿蘇神社を中心に行われる春の祭事をご紹介します。

国重要無形民俗文化財 阿蘇の農耕祭事

委員 嘉悦 渉

踏歌節会・歌い初め

年頭の行事として田歌を歌いはじめる儀式です。結婚式等でも歌われる縁起ものもあり、先祖を敬い弥栄を歌います。

卯の祭(3月10日・22日)

阿蘇を開拓して農耕を広められた健磐龍命が阿蘇に下向された3月

の卯の日を記念し、開拓の恩に感謝するという祭です。阿蘇神社では、毎朝五穀豊穡が祈られ、阿蘇古代神楽が奉納されます。

田作り祭(3月12日・18日)

期間中は初日を「横筵神事」、中日を「御前迎え」、最終日を「祭りあげ」といいます。初日に年祢の神のご神体を神輿に遷座し、横筵神事が行われます。期間中は宅祭りが行われます。

御前迎え(火振り神事)は、年祢の神が姫神をお迎えになる神事です。まず、赤水の吉松神社で榎の木から姫神の御神体と御笏2本をつくり、真綿で包みシバで覆います。阿蘇神社へ向かう途中、浜神社・山下・渋川・蔵原・竹原・西町と神事等が行われ、塩井神社で身を清め、化粧原で御神体に米の粉で化粧をします。その頃はあたりも暗くなり、阿蘇神社ではカヤで作った松明を振り、姫神をお迎えします。姫神が阿蘇神社に到着して神婚の儀が行われ、年祢の神と姫神の神輿は血原・奥の園と移動し弓が放たれます。年祢社の前を通り、阿蘇神社の賽木前で再び矢を放ち、社家宅で安置されます。

かつては、宮地の町が火の海になるぐらい松明を振り、神様の神婚の儀を祝いました。また、これにより

火災やケガ人が出たことは一度もありませんでした。

祭りあげ(田作り神事)は、農業の神である年祢の神に五穀豊穡を祈るもので、農業の指導をされた御手振りを神事として行うのは阿蘇神社だけといわれています。神官12名により行われ、「千町万町」を初め20とおりの格調高い神事で、稲作の過

程を模倣的に演じます。その後、年祢の神は還御します。



▲祭りあげ



▲火振りのようす

名 称	期 間	場 所
●踏歌節会	旧1月13日(3月2日)	阿蘇神社・阿蘇家
●歌い初め	旧1月16日(3月5日)	国造神社
●卯の祭	3月初卯日から 次の卯の日まで	阿蘇神社
●田作り祭	卯の祭期間中、 巳の日から亥の日まで	年祢社・社家宅 阿蘇神社 吉松神社
●横筵神事	○巳の日(3月12日)	国造神社
●御前迎え(火振り神事)	○申の日(3月15日)	宮地と手野の風宮神社
●祭りあげ(田作り神事)	○亥の日(3月18日)	国造神社
●春祭	3月28日	阿蘇神社
●風祭	旧4月4日と旧7月4日	阿蘇神社
●おんだ祭	7月26日	阿蘇神社
●御田植神幸式(おんだ祭)	7月28日	田鶴原神社・阿蘇神社
●柄漏流神事(眠り流し)	8月6日	阿蘇家
●眠り流し	8月6日	国造神社
●火焚き神事	8月19日から10月18日	霜神社
●田の実祭	9月23・24日	国造神社
●田の実神事(田の実祭)	9月25・26日	阿蘇神社

※()の期日は平成19年のもの